

岩手県 グループホームかつひろの家

(部分は外部評価との共通評価項目です)

自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>かつひろの家の理念 ～尊厳ある生活の構築～</p> <p>一、ゆっくりと穏やかに 一、のんびりと楽しく 一、一緒に笑顔で暮らす家</p>	○	<p>食事の前に嚙下体操として早口言葉を唱えていましたが、朝食前には理念を唱え、一日の始まりとしています。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念は見えやすい場所に掲示しており、職員一人ひとりが常に意識し、日々の介護に活かしている。また、法人のミーティングに当番が唱え、一分間スピーチをし、かつひろの家に帰り、申し送りと共に職員に伝えている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>面会、見学時に見えやすい場所に掲示している。利用者、ご家族に対しては、入居契約時に掲示し説明している。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所を散歩する方と挨拶を交わしたり、野菜を届けてくださる。近隣の聖愛ベビーホームの園児達も散歩中や避難訓練として立ち寄ってくださる。また、時々、観葉植物を持って訪問してくれる方もある。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>併設するさくらの郷の行事に参加。(夏祭り・敬老会・文化祭など)自治会の方々との茶話会をし、昔語りに花が咲き交流が深まった。聖愛ベビーホームの夕涼み会に招待されでかけ、一緒に写真を撮ったり交流している。</p>	○	<p>今後も地域と交流できる行事を更に増やしていきたいと考えています。また、積極的に地域の行事に参加し、交流を深めていきたいと考えています。(例:清掃活動など)</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高校生の職場体験の受け入れをしている。また、随時、実習生やボランティアの受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について職員全員で勉強会をし取り組んでいる。外部評価の結果は、職員会議で報告し、改善に向け努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス利用状況の他、行事实施報告、自己評価の報告や外部評価の結果報告をし、委員の皆様から意見やアドバイスをいただいている。また、会議だけにとどまらず、畑で収穫した野菜を使い食事作り交流会を行った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種書類や広報を届けたり、利用者の後見制度や権利擁護について利用者、ご家族、職員と共に市町村担当者と連携し取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議等で勉強会を行い、必要のご家族へ情報提供し、市町村との連携も行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止関係法の理解を図り、虐待防止の徹底に努めている。	○	普段から言葉遣いなどを気をつけるなど配慮しています。言葉遣いひとつでも、一歩間違えば、虐待に繋がる可能性があるため、今後とも徹底して気をつけていきたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に対し、サービス内容、利用料の他、事業所としてのケアの考え方や取り組み等、契約書及び重要事項説明書を用いて説明している。その上で、署名・捺印しただいている。利用者の状態変化により、やむを得ず契約解除となる場合にも、十分な説明と話し合いを持ち対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の想いを傾聴し、不満・苦情を受け止め、改善に取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の状態報告及びケース記録の閲覧をして頂いている。緊急時には、速やかに連絡をし、通院等の対応をしている。面会の少ない方にも、定期的に電話で報告。金銭管理は毎月報告。遠方のご家族にも広報郵送している。	○ 利用者の生活の様子は、ご家族が面会に来た時は勿論のこと、なかなか来所できないご家族のために、請求書送付する際、担当者より近況報告を添えるようにしていきたいと考えています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口設置の説明をしている。(法人・市役所)ご家族にアンケートを実施している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、意見や提案を聴く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院、行事等、必要に応じて柔軟に勤務の調整を行っている。入院などの緊急時は、職員2名で対応し、残りの職員で他利用者の対応をした。急な勤務変更もあるため、普段から、職員間の協力体制に対して理解と協力をいただいている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えられている。やむを得ない場合は、利用者、ご家族への説明を十分行うよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修:グループホーム協会の定例会に参加。内部研修:緊急時の対応(誤嚥等)、認知症の周辺症状について 法人内研修:リスクマネジメントにも参加している。段階に応じて認知症実践者研修など外部研修への参加もしている。 職員会議にて研修の報告を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会(盛岡・奥州ブロック)に参加し、情報交換している。必要に応じ、電話やFAX等での情報交換しサービス向上に努めている。他グループホーム職員の訪問があり、ネットワーク作りをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の心身が健康でなければ、利用者に対して質の良いケアを提供することは出来ないと考え、全職員の面接を行なっている。職員互助会があり、スポーツ交流会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課について取り組みを始めている。管理者も現場に来て、利用者とお茶を飲む機会を設け、勤務状況の把握をしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話による相談があった場合は、ご本人とご家族に見学を勧めている。見学に来られた際は、お茶を飲みながら、現在困っていることや不安なことなどを伺い、状況把握や関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が遠方の場合は、電話を重ね、想いや訴えを十分に聴くように心がけている。現在の待機状況など、かつひろの家に訪問されるご家族もいる。訪問された際は、自宅での様子や困っていることなどをよく聴いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ひとり暮らしの方で、ケアハウス入所も視野に入れ、かつひろの家も見学されたケースもある。ご本人やご家族が自宅近くの施設を希望をされた。状況を確認し、他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、かつひろの家を見学していただいたり、お茶を飲みながら雰囲気に馴染んでいただき、安心して納得した上で利用に結びつけている。ご本人やご家族の気持ちを大切にし、担当ケアマネージャーとグループホーム職員も同行して自宅訪問もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶ姿勢で取り組み、一緒に過ごすことを重視している。一緒に歌を歌ったり、昔話を聴き、四季の行事を取り入れ、郷土料理の作り方など教えていただいている。畑作り、野菜の植え方なども教えていただきながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日々の様子や気づき、生活歴の情報共有に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族からの情報を得ながら、外出や外泊の希望に対応している。ご本人からの希望で電話を取り次ぎ、関係の維持に努めている。パイプ役となれるよう、こまめに状態の報告や相談をするよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方の定期訪問があり、関係が継続されている。地域の商店に買い物に出かけている。利用者の元同僚の面会に来られ、食事に外出されたり、馴染みの人との関係が継続するよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事を一緒にとり、会話を多く持つようにしている。個々の家事に参加し、お互い協力し合えるよう見守りしている。椅子を引いてあげたり、手をつないで歩いたり、お茶をついであげたり、利用者の部屋で利用者同士語らい、くつろいでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方(入院中)のご家族より、退院後について相談され、介護保険要介護認定健康申請書(区分変更)などのアドバイスさせていただき、関係を断ち切らないようにした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用し、本人の思い、要望、意向の把握に努めている。意思疎通困難な方でも、表情や行動から汲み取る努力をし、ご家族からの情報も得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートを活用し、24時間アセスメントを行い、生活リズムの把握に努めている。本人のわかること、できそうなことを見極め、潜在能力の引き出しに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の際に、アセスメントを含め、意見交換やモニタリングを行っている。ご本人やご家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回見直ししているが、状態に変化があった場合は、ケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。見直しした介護計画は、ご家族に説明・同意・交付を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践などを個別のケースに記録。熱発・転倒などの特記事項は、主治医の意見や事故再発防止の対策なども記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設を利用し、支援を行っている。「自宅へ行きたい」と希望があった場合は、自宅へドライブに出かけたり柔軟に対応し、本人の気持ちの安定を図るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接施設との交流。地域の方からの訪問あり、茶話会や昔語りのボランティアもある。コミュニティーセンターでの歌と踊りの祭典 親睦チャリティの見物にも出かけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接の桜つつみ居宅介護支援事業所のケアマネジャーに相談したり、胆江地区連絡会に参加し、地域のサービス事業者と関わりを持つようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度や権利擁護について、随時相談し、地域包括センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医に継続して通院している。家族同伴の通院の他、都合により職員が通院介助することもあるが、主治医への状態報告、また、家族への通院結果報告を十分行っている。歯の痛みの訴えがあった利用者の受診に際して、事前に認知症の方の状態を伝え、歯科医との連携を図った。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>例として、転倒が多くみられる利用者が認知症の専門等を受診し、専門的な検査(CT)により、脳の萎縮がみられることなど医学的見解を踏まえた上で、継続して通院ができるよう支援している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設施設の看護師に相談したり、個々のかかりつけ病院の看護師と相談し指示を仰いでいる。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ペースメーカーの電池交換のための入院の際、事前に検査し、医師や担当看護師に本人の状態を伝え、サマリーで申し送り情報交換し、早期退院できるよう支援した。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の対応は、まだしていないが、ご家族アンケートの中に項目を増やし、ご家族の意向を伺った。ご本人にも意向を伺い、グループホームを希望している方もいることを真摯に受け止め、今後に繋げていきたいと考えている。</p>	<p>○ いつ何時ターミナルが訪れるか予測できないため、グループホームとしての意識の共有や看取りについての研修を行い、対応を考えていきたいと考えています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>急変時の支援協力体制は出来ている。(併設施設看護師)</p>	<p>○ 医師や看護師との連携を図り、利用者の重度化や終末期に向けて本人及びご家族を含めたチームでの支援を目指したいと考えています。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族から習慣(畳で過ごしている)・好みなど情報収集する。他事業所に移られる場合、当グループホームでの支援状況を伝達し、情報交換を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮しながら、さりげなく声がけている。気になる言葉かけがあった場合には、職員同士で確認指導している。全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	誕生会のメニューの選択。外出行事についても、希望の場所などを聴いて決定している。一人ひとりの意思を尊重し、自己決定や希望を引き出す場面を増やしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、食事作り、散歩など一人ひとりの状態や本人の想いに配慮し、本人のペースを大切にしながら、役割や生きがいが見出せるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「白髪を染めたい」と希望される利用者に対して職員が送迎し、美容室に出かけている。美容師のご家族が遠方より散髪に来られたり、お嫁さんの美容室に外出して散髪する方もいる。毎日、お化粧している方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、野菜切り、おにぎりやすいとん作りなど利用者個々の能力に応じて役割分担しながら、一緒に行っている。食事中も同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。旬の食材や、自分達の畑で収穫した野菜を食卓に並べている。利用者自ら食材を選び、味噌汁を作っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みを考慮し、牛乳をココアに、コーヒーは甘めに、麺類はご飯食などに代替している。買い物をしながら、利用者が食べたいものに献立を変更することもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をもとに排泄パターンを把握。リハビリパンツからびったりパンツ(布製)にパットを併用になった方もいる。外に行きたい→便意の表れの可能性もあるため、本人のサインを見逃さないよう観察している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態や気分によって変更している。菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わっていただくよう支援している。温泉に外出時は、同性介助をしている。浴槽のお湯の温度は、十分確認しながら、浴槽内に滑り止めを使用し介助している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室に三畳の畳があり、布団で休まれている方もいる。生活リズムを整えるよう日中の活動を促している。眠れない時は、職員の傍で過ごしていただいたり、添い寝している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の言葉をかけるようにしている。食事作り、裁縫、草取りなど。広告でゴミ箱作りしていただき、食事やおやつのときに使わせていただいている。文化祭の作品として、ちぎり絵やラベンダーのポプリを作った。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏祭りや文化祭など個々に財布にお金を準備し、好きなものを買って食べれるよう支援している。化粧品を買いたいと希望あり、職員と出かけ購入する。通院時の支払いや利用料の支払いも職員付き添いのもと本人が行っている方もいる。現金を持っていることで、安心感を抱いており、見守りしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内で過ごすストレスが溜まるため、犬と散歩に出掛けたり、近くの人首川の土手にススキを取りにでかけ季節感を味わっていただいた。日常的に買い物のための外出の他、自宅へ行きたい方の希望にも対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出支援している。お花見、つつじ見物、紅葉見物、温泉旅行、初詣、白鳥鑑賞など。墓参りや、お盆・お正月の外泊。兄弟家族との食事会など希望により行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんの誕生日や贈り物のお礼など、本人の希望で電話の支援を行っている。また、お礼の手紙を代筆。遠方の妹さんに手紙を書きたいと希望あり。広報と一緒に郵送した。郵便物の返信(年金・銀行等)を本人が出せるよう支援した。また、ご家族と年賀状のやり取りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人、友人など気軽に訪問してくださっている。訪問時には、居心地良く過ごしていただけるよう居室に案内し、お茶を飲みながらくつろいでいただけるよう雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関の鍵はかけていない。センサーの設置により外に出られた時は見守りしている。起床時に全開錠、夜間は、安全確保のため、施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配り・気配りをし、安全に配慮している。夜間も定期的に見まわりし、状態の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ナイフ・ハサミなど危険なものは、職員側で保管している。使いたい・持っていたいという利用者がおり、職員間で検討し、居室においている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを含め、事故報告書を作成し、要因や改善策について考え、事故再発防止に努めている。研修会参加や勉強会にて知識を共有し、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修にて、全職員で緊急時の対応や誤嚥・異物の除去など勉強し再確認した。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。岩手内陸地震の際、被災地(衣川区)での対応を職員会議で勉強し、防災マニュアルの確認をした。非常用品を用意している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の重度化に伴い、ご家族と相談しながら支援している。歯科受診の際、抜歯はリスクが生じると医師より話しありご家族と相談の上、抜歯はせず、歯を削り経過観察している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や顔色、表情など些細な変化も見逃さないよう早期発見に努めている。気づいたことは、ミーティングで情報を共有している。状態観察し、体調変化や気づきは記録し、速やかに対応する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容、副作用などはファイルにまとめて保管している。服薬の際は、本人のものか確認し、直接手渡ししている。自宅へ外出した際、昔の内服薬や目薬など持つてくることがあるため、随時確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に、乳製品(ヨーグルト、牛乳)の摂取に努め、水分補給にも努めている。下剤の使用については、主治医と相談しながら、排便の様子をみている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ及び介助し、食物残渣物除去など口腔ケアを行っている。夕食後には、義歯洗浄し、口腔内の清潔に努めている。歯科医、歯科衛生士の指導のもと、本人に合った歯ブラシを購入しブラッシングしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や愛犬・愛猫の写真や本人の書物など馴染みの物や使い慣れたもの(電気スタンド)を飾っている。携帯のラジオを居室で聴いている方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行っている。冬期間は、加湿器や各居室に加湿タオルを使用し乾燥予防に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はほとんどなく、ホール内に手すりも付いている。本人の状態に応じて車イス使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室、居室などは大きく表示している。各居室には、表札のように名前をつけ、姿勢の低い方には、見える位置にもつけている。夜間は、安全で安心してトイレに行けるよう居室前の電気をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のプランターに花を植え、利用者と一緒に水やりをしたり、畑作りや草取り、縁側での日光浴や干し柿作りや切り干し大根作りなど季節ごとに楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとのんびり過ごしている。食事が楽しみとなるよう利用者と職員と一緒に食事の準備、下ごしらえ(野菜きり、すいとん作りなど役割分担)、盛り付け、片付けができるよう支援している。(利用者自ら食材を選び味噌汁を作っていた)
- ②馴染みの季節の慣わし等利用者主体で行っている。(お彼岸：おはぎ、ぼた餅、小正月：みずき団子、お月見、梅干し作り、葉焼き作り、流しそうめん、干し柿作り、切干し大根作りなど)
- ③本人の能力が発揮できるよう、また、生きがいを持って生活ができるよう支援している。
- ④外出することにより、季節感を味わっていただいている。(初詣、お花見、つつじ見物、花火大会、紅葉見物、日帰り温泉旅行、県南ブロック輪投げ大会など)
- ⑤本人の想いを傾聴し、慣れ親しんだ地域との関わりを継続しながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。(墓参り、ふるさと巡りなど)
- ⑥畑仕事することにより、昔の記憶を引き出し、収穫する喜びを分かち合い、心身豊かに過ごせるよう支援している。
- ⑦隣接する聖愛ベビーホームの園児たちとの交流や自治会との茶話会など地域に根ざしたグループホームを目指している。
- ⑧開所記念日には、故 千葉勝弘様のご両親及び利用者のご家族をご招待しお祝いしている。